日本行動計量学会会報
第3号
1974年6月25日
日本行動計量学会
事務局
東京都文京区本郷7－3－1
東京大学医学部保健
学科疫学教室内

和文誌編集幹事となって

野元菊雄

日本行動計量学会会報は、この号で第三号となる。第二号によると、会員数五百人にもう一歩とあるが、今は六百人にあと一歩というところだという。会員数の順調な伸びは事務局各氏の努力にも負うところが大きいが、何といってもこの学際的分野が世の関心を集めているからだろう。

したがって、各種の研究会が学会のアレンジでいくつも、そしてまた各地で開かれ、その出席者も少なくないという。わたしはもちろんそう多くの学会を知っているわけではないが、しかし、学会主催でのこうした研究会の盛況は珍しいのではないかと思う。もってこの学会の発足が千天の慈雨だったことを知るべきだ。

これらの研究会は、学会運営委員会の「若い」諸兄の企画、実行にかかる。運営委員には年齢制限があって四十歳後半になると資格がないのだそうだ。老眼鏡のやっかいにまだなっていないわたしなど木戸をつかれて大いに不満な気がしないでもないが、ここに若い学会の、したがって若い学問の気力を認めて満足すべきなのだろう。

運営委員からはじき出されて、わたしは編集委員になった。国語の方を専門としていて、しかも老人？というわけか、和文誌の編集幹事の責任者ということにされてしまった。大変な名誉ではあるけれども、いささか実力がこれに伴わずといった感があるのは大方も認めるところで、当人もまたじゅうぶん承知している。

わたし自身はそう新しい理論なり方法論を生み出せるはずもないし、ただ、言語の実際例に通用することに興味を持って、いくつか江川清君（運営委員）といっしょにやっているに過ぎない。けれども、まあ何とか学会に一臂の力を貸すことができるとすれば、このくらいだろうと思って引き受けたのだ。

といっても編集者というものは一人でいくら力んでもどうにもなるものではない。いい原稿がどんどん集まってこなければ何ともならない。この点で会員の皆さんのご助力を大いに望むのみだ。一つわたしを原稿の海に溺れさせ大いに苦しめてもらいたい。

今のところ半年刊だけれども、これは会員数と販売できる数とが飛躍的に増大すれば、年四冊も発行可能となる。忙しくなることは大いに歓迎だ。

われわれとしては、なるべくいろいろな分野の人に執筆してもらいたいと思っている。あまり偏りがないようにしたい。同時に創刊号の経験から、国語の表記にもう少し関心を持ち、ご自分の原稿の整理をされることを寄稿家諸氏に望みたいと思う。

（日本行動計量学会理事・和文誌編集幹事代表・国立国語研究所言語行動研究部長）

○会費納入のお知らせ○

会報第二号でお知らせしましたように昭和四十九年度の会費（正会員二千円、準会員千円）は、四月末日までに原則として納めなければなりませんが、六月二十日現在、四十八年度に入会した会員四八七名のうち僅か一六七名しか会費を納めていません。会費納入が遅れますと学会誌発行などに支障をきたしますので、未納の方は直ちに御納金下さい。会費納入には振替用紙（振替番号・東京一四八〇五六）を御利用下さい。なお、会則により長期間会費を納入しない場合には、学会を退会したものとみなします。

第二回学会総会
五十九の研究発表申し込み

本学会、第二回総会は、九月二日（月）から五日（木）まで四日間、統計数理研究所で開催されるが、会員からの研究発表の申し込みが全部で五十九件集まった。この発表内容は、おおまかに次のように五つのセクションに分類される。（括弧内は研究発表数）

A多変量解析によるデータ解析の方法論（十）　Bその他の手法によるデータ解析の方法論（十）　C計量心理学的方法によるデータ解析（十一）　D計量政治、経済、社会学的方法論によるモデル構成とそのデータ解析（十四）　E計量診断、健康調査表の作成、医療システム（十四）、発表者五十九名のうち二十八名の約五割が、昨年の大会、さらにはそれ以前の四回の大会に発表していない新顔で、この意味で本学会に年々新しい力が結集されていることがわかる。

この他、第一回目の九月二日の午前から午後にかけて、時系列分析に関する藤井光昭氏（東工大）、人間の適応能力に関する小林庄一氏（新潟大）の特別講演、宮原守男氏（虎の門法律事務所）、倉林義正氏（一ツ橋大・経）、肥田野直氏（東大・教育）、浅野長一郎氏（九大・理）、芽陽一（東大工）、根岸龍雄（東大医）の六氏によるパネルディスカッション「人間研究と行動計量学」が開催される予定である。

なお、プログラムは七月下旬に会員に発送します。また、発表論文抄録集は発表者には八月下旬、それ以外の会員には、大会当日、実費（一、〇〇〇円）で配布致します。

講習会開催さる

本学会主催第一回講習会が、総合テーマ「多変量解析法」という主題のもとに五月九日（木）～十一日（土）の三日間開催された。参加料が低価であったこととテーマがなじみ深いものであった等の理由で、参加者も七十三名と盛況であった。東京近辺ばかりでなく関西地区八名、名古屋地区二名、仙台地区一名と各地区から多くの会員が参加した。

なお、講習会資料「多変量解析」（五十六頁・タイプ印刷）の残部がありますので、希望者は事務局宛御連絡下さい。（一部一、〇〇〇円）

なお、この講習会には、多変量解析に関する既存の研究の紹介のみならず、各講演者による暫新な研究成果も紹介された。

月例会開催さる

第二回月例会が四月二十日（土）に総合テーマ「因子分析法」で開催された。参加者は第一回の月例会を上まわって約百名、総数研の講堂が広く感じられない程の盛況であった。ただし、討論が一部の人に偏って盛り上りに欠けているという点が参加者から指適された。

会員数五百五十名突破

四月上旬に発送した名簿によると、三月二十日現在で四八七名の会員がいたことになりますが、その後も順調に延びつづけ、六月十七日現在で正会員四七三名、準会員八十名、計五五三名となった。また、賛助会員の方も順調に延び三月二十日以降に次の五社の加入があり、これによって賛助会員数は全部で三十社となった。

1. 博報堂
2. ビデオリサーチ
3. 集団力学研究所
4. 社会行動研究所
5. 毎日新聞

新会員募集のお知らせ

新会員を募集いたしますので、お近くに本学会に加入されたい方がいらっしゃいましたらその旨葉書きで事務局宛御連絡下さい。申し込み用紙と振替用紙を御送り致します。（必要枚数を銘記のこと）

会員の声募集

会報に会員の声を掲載致しますので、学会に対する要望、感想がありましたらふるって御応募下さい。ただし、内容は四百字以内にまとめて下さい。

サブグループ研究会開催のお知らせ

会報第二号でお知らせしました十一のサブグループ研究会結成のよびかけに対し、延べ二十名の会員からの参加希望がありました。これらの会員の希望を考慮して、さしあたり次の四つの研究会を開催することになりました。

会員で参加希望の方は、直接発起人（多数ある場合は○印）にお申し込み下さい。なお、会員の同伴があれば非会員の方も参加できますので、各々の研究会に関心のある方がいらっしゃいましたら、おさそい合わせの上、ふるって御参加下さいますようお願い申し上げます。

凡例①研究会の名称②発起人氏名③第一回開催期日④第一回開催場所⑤内容

1. ①健康指標と保健医療評価
②井上通敏（阪大医）
③昭和四十九年七月二十三日（火）午後二時～五時
④大阪大学保健管理センター（大阪府豊中市待兼山）
⑤東南アジアの医療事情
阪大工・梶谷文彦

自動化健診システムのデータ解析
阪大医・武田　裕

2. ①データ解析と統計数理（情報理論と統計数理、データの変動と多次元解析、多変量解析に関する新しい手法の開発の三つの研究会を合併したもの。）
②○岩坪秀一（電総研）、古林隆（崎玉大理）、佐藤創（上智大理工）、柳井晴夫（東大医）
③昭和四十九年七月六日（土）午後三時～五時
④電子総合研究所B会議室（千代田区永田町）
⑤デンドログラムの一つの指標
埼玉大・古林　隆
その他、会合のもち方の相談

3. ①決定理論の将来
②松原望（統数研）
③昭和四十九年七月二十九日（月）午後一時半～三時半
④統計数理研究所
⑤未定

4. ①人間評価
②梶田叡一（国立教育研）
③昭和四十九年七月六日（土）午後一時半～三時半
④国立教育研究所（東京都目黒区下目黒）
⑤人間評価の各種の方法について
梶田叡一他

研究会だより

社会調査によるデータ開発研究会

会報第二号でお知らせした十一の研究会のうち、統数研鈴木達三氏による表記の研究会がすでに発足し、二回の会合を持っている。これまでの参加者数は延べ二十三名で、鈴木氏によってデータ収集一般に関する問題、データ収集が巧くいかなかった場合についてのデータ解析につきまとう種々の問題、さらにはデータの内容、分析法を知らずに結果だけをみて解釈した場合に起こる問題が概説され活発な討論が展開された。なお、次回の会合は、統数研を会場として七月十五日（月）午後一時半～四時半に開催される。当日の内容は主に「データの収集方法とその誤差について」である。乞参加！

ME学会「計量診断、治療研究会」開催についてのお知らせ

ME学会、専門別研究会が本年五月より発足し、第一回の会合が五月三十日（木）に統数研で開催されました。当日の演題は、①CADの分類　井上通敏（阪大医）
②臨床診断と行動計量学　林知己夫（統数研）と行動計量学会に関連の深いものでした。この研究会の参加資格はME学会会員に限定されておりませんので、行動計量学会の会員でも自由に参加できます。したがって、関心のある方はふるって御参加下さい。なお、第二回、第三回会合予定は次の通りです。

◇第二回会合
∧日時∨　七月二十六日（金）午後二時～五時
∧場所∨　統計数理研究所
∧内容∨　東京女子医大における ICU（救急用患者装置）について
東京女子医大　今井康晴
○動脈硬化指標とコンピュータ処理　統数研　駒沢　勉
慈恵医大　長谷川元春

◇第三回会合
∧日時∨　八月二十三日（金）午後二時～五時
∧場所∨　大阪大学医学部
∧内容∨　TPIによる精神科疾患の自動診断
東大医　斉藤陽一
○主成因分析と因子分析
日本医大　三宅章彦

会議議事録要旨

◇**第六回編集委員会**（六月十日）
於　統計数理研究所
出席者　編集委員十三名
主要決定事項
1. 欧文誌の英文題目を Behaviormetrika と o と m の間に r を入れることを採決のすえ決定する。
2. 欧文誌創刊号の応募論文を審査の末、六篇の論文の掲載を決める。
3. 論文抜刷は二十部を無料で著者に進呈する。（和文、欧文誌とも）
4 和文誌の発刊所を南窓社とし会員以外の販売を委託、予価を一部八〇〇円とする。
5. 和文誌第二号の発刊は十一月発行、原稿締め切りは七月二十日とする。（別掲）

◇**第六回運営委員会**（五月二十六日）於　東大医学部
出席者　運営委員九名
主要決定事項
1. 第二回講習会の開催期日とテーマを定めるために、講習会出席者にアンケートをとる。
2. 第三回月例会を七月十三日(土)に「パターン認識」のテーマで統数研で開催する。
3. 類似している研究サブグループはできる限りまとめてグループを結成し、七・八月中に第一回の研究会を開くよう発起人によびかける。
4 「行動計量学シリーズ」発行について準備委員会を中心に運営委員に調査を行なう。
－以　上－

学会誌編集委員会より

欧文誌創刊号発刊近づく

和文誌に引きつづいて、欧文誌創刊号が八月下旬に発刊されることになりました。創刊号には、林知己夫（統数研）、戸田正直（北大文）、磯道義典（電総研）佐伯胖（東京理科大）、竹内啓（東大経）、小室直樹（以上、掲載順）の六氏の論文が掲載されます。

急告　**和文誌第二号原稿募集のお知らせ**

和文誌第二号は、十一月中に発行の予定ですが、まだ原稿の応募数が必ずしも十分でありませんので、締切り日を七月二十日に延長します。内容は法律、政治、心理、教育、社会、工学、医学、生態学の各分野で人間の広義の行動現象に関する計量的方法論の適用例、さらにはこれらの分野に適用可能な新しい計量的方法論の開発に関するものであれば何でも構いません。期間が十分にありませんが、ふるって御応募されることを願います。応募される方は、至急事務局あてその旨御連絡下さい。原稿用紙をお送り致します。

なお、第三号の発行は来年三月、原稿締切りは十一月中旬です。

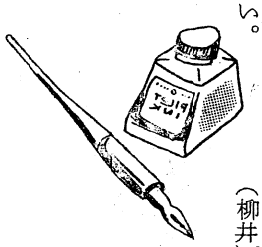
欧文誌第二号原稿募集

欧文誌第二号は来年六月～七月に発行の予定ですが、原稿締切日本年十二月下旬となりますので、応募希望者は御準備下さい。

編集後記

学会が設立されて、はや十ケ月会員募集、月例会、講習会など多事多忙な事務局であるが、学会の正式な名称が、日本計量行動学会ではなく、日本行動計量学会であることが、ようやく感覚的に認識できるようになった今日この頃である。

人間行動にまつわる多彩な現象をむやみに難しい数式を用いて表現することが自己目的のような多くの分野にはびこる計量△△学、すなわち計量のための計量学から決別して、人間行動の真の実態を解明する為の手段としての行動計量学を発表させていくことが本学会の目的であり、しかも責任であると思う。

ところで、ここ最近二ケ月の間に事務局五人のうちの二人（M氏 I氏）が遅まきながら華燭の典をあげた。一・八シグマを越える時期の結婚であるから、両人ともしごく平静さを装っているが、これを契機に行動計量学会がさらに飛躍していくことを願いたい。あわせて会員諸氏の御協力を心から願いたい。

（柳井）